

## 聞き方試験

昭和五十六年度（中級）

〈時間 20分〉

これから聞き方の試験をはじめます。最初にわたしの話をよく聞いてください。くりかえして二度話します。聞きながらメモをしてください。そのあとで、問題を読みます。わたしの読む問題を聞いて、そのことが正しいか正しくないか、考えてください。そうして、正しいときには正しいという文字を  でかこんでください。正しくないときには正しくないという文字を  でかこんでください。

先日聞いたNHKの放送によりますと、今、日本中にある自転車の数は四千九百万台ということですが。日本の人口は現在およそ一億一千七百万人ですから、日本人は二・五人に一台の割合で自転車を持っているということになります。ところが、何でもふえすぎると問題が起こるものでして、このところ「自転車公害」が、あちこちで問題になってきました。「自転車公害」という言葉は、初めて聞く人が多いかと思いますが、これは東京・大阪などの大都市にはなくて、大都市の中心から三十キロないし五十キロぐらい離れた、比較的小さな都市の電車の駅のまわりに起こるものです。

例えば、ある駅から電車を利用して大都市へ通勤・通学する人たちが、うちから駅まで自転車で乗って来るとしましょう。自転車は夕方までどこかに置いておかなければなりませんね。できるだけ駅の近くに置く方が便利ですから、駅のまわりや駅前広場に置くでしょう。朝のラッシュの時には、駅のまわりはたちまち自転車で一杯になって、あとから来た人たちは道路に置くことになります。このようにして置かれた自転車が数千台にもなりますと、狭い歩道がますます狭くなって、歩く人の邪魔になるばかりではなく、商店や銀行も迷惑することになります。このような状態が、朝から夕方まで続くわけです。もし火事でも起こったら、消防のさまたげになるに違いありません。

こういった状態を、市役所の方でも黙って見ているわけではありません。たいていの市では無料の自転車駐車場を設けているのですが、それが駅から離れていたり、広さが十分でなかったりで、問題の解決にはなっていません。人を雇って自転車の整理をさせているところもあります。このような人に迷惑をかける自転車は、駐車違反の自動車と同じように警察がかたづけてしまえばいいという意見もありますが、自転車を自動車と

同じようにあつかうことは、法律上できないのだそうです。

以上が、自転車公害の実態ですが、では自転車公害がなぜ起こるかといいますと、なんといいっても最大の原因は日本の住宅事情にあると思われます。最近のように住宅地が郊外へ郊外へと伸びていって、駅から歩いて三十分以上もかかるところに新しく住宅地ができた場合、通勤・通学に利用するバスが不便だったりすると、自転車を利用するほかないでしょう。それに、バスよりも自転車を利用するほうが割安だということもあります。一方、年間六百万台という自転車の生産が続けられていることですし、自転車公害は当然なくなりそうもない、といったところでしょう。

それでは問題を読みます。

一番 日本には、四千九百万台の自転車がある。

二番 日本人は二・五人に一台の割で自転車を持っている。

三番 自転車公害は大都市の駅のまわりで起こる。

四番 自転車公害で迷惑するのは、道を歩く人ばかりではない。

五番 自転車公害は朝夕のラッシュのときに起こる。

六番 自転車公害に対して、市役所は何もしていない。

七番 道路に置かれて邪魔になる自転車は、警察がかたづけなければならない。

八番 自転車公害の最大の原因は、駅から遠い住宅地が多くなったことである。

九番 自転車公害のあるところでは、自転車よりもバスを利用するほうが割安である。

十番 自転車公害は、すぐにはなくならないであろう。

(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
正しい	正しい	正しい	正しい	正しい	正しい	正しい	正しい	正しい	正しい
正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない	正しくない

例

正しい    正しい

正しくない    正しくない